

しば子先生の

芝生教室

生徒：先生、肥料を与えると芝生が伸びる仕組みは科学的に分かっていると思うんですけど実際ののぐらいいっぱい伸びるのでしょうか？

先生：肥料、特に窒素成分を与えると伸びることは経験的にも科学的にも誰もがわかっていることよね。刈込の手間を省きたいがために窒素肥料を抑えれば、病虫害の抵抗性が下がったり雑草の侵入が激しくなったりしてくる。また相対的に根が上がってしまって乾燥にも弱くなる。擦り切れや踏圧に対する抵抗性も下がる。もちろん夏場や冬場の厳しい環境に対する抵抗性も下がるので芝生へのダメージは計り知れないし、それらの状況を克服するために殺菌剤、殺虫剤、除草剤の使用は増える・・・もちろん農薬の使用は最低限必要だとしても農薬が芝生を元気にするわけでは絶対ないというのもまぎれもない事実・・・

生徒：やはり芝生を元気にしておかないとより無駄なコストがかかってしまうということなんですか・・・

先生：間違いないことは芝生が成長するには肥料が必要であること、芝生の葉が伸びるということは根の量も増えるということ。そして主に窒素成分がその鍵を握っているということ・・・そしてその窒素という元素は人の思惑通りにすんなりとは芝生に吸収されないということも大事な事実・・・

生徒：でもやはり広い面積を刈り込むための人件費はばかにならないから伸びない方が楽ですよ・・・

先生：肥料の施肥量、農薬の使用量、刈込のための人件費、更新作業のための砂代や作業費、これらのコストのもっとも合理的な計算が必要ね・・・それと最も重要なのはローエンドの管理なのかハイエンドの管理なのかきちんとしたコンセプトがないとその合理的予算の算定基準があいまいになってしまうわ・・・

生徒：ローエンドとハイエンド？

先生：初耳かしら？これがわかってないと芝生の管理は闇雲なものになってしまうわ・・・

生徒：ローエンドとハイエンド、つまり低い管理と高い管理・・・ですか？

先生：日本語には訳しにくいけど低管理と高管理、あるいは低予算管理と高予算管理とでも訳せるかしらね・・・すでにローエンド、ハイエンドという言葉は日本語になってると言ってもいいかもしれないけど・・・



生徒：つまり安い管理の芝と高い管理の芝生と言うことですね・・・予算の高い低いはゴルフ場のプレーヤーと比例するということでしょうか？

先生：それもあるわ、トーナメントを行うようなコースはプレーヤーが2万円3万円以上ということもござらだわね・・・これはハイエンドのコースと言えるし、アメリカでローエンドと言えれば1000~3000円クラスのコースと言う感じかしら・・・

生徒：それはわかりやすい感じですね・・・

先生：でもそれだけじゃなくて1つのゴルフ場にもローエンド、ハイエンドがあるわよね・・・

生徒：えっ・・・

先生：あらわからない？グリーンはハイエンドでしょ！ティー、ウェアウエー、ラフ、法面、クラブハウス周りから進入路・・・と順にローエンドになっていくわね・・・

生徒：そうか、刈高ですね！

先生：その通り、刈高が低ければ芝生へのストレスが高くなるからより高い集約された管理が必要よね・・・

生徒：そうするとローエンドのメンテナンスとハイエンドのメンテナンスはいろいろなファクターが考え

られますね・・・

先生：今日はさえてるわね・・・表にその考えをまとめておいたわ・・・

生徒：最

初の行の芝生の種類とは・・・？

先生：そう、芝の品種によってハイエンド用とローエンド用があるわ。また同じ品種でもハイエンドにもローエンドにも管理できるものもあるわ・・・この表を見ればわかるとおり低刈りと高い刈込頻度は必須条件ね・・・低刈りをしておいてたまにしか刈り込まないというのはあり得ないのよ・・・肥料の施肥量にも関連してくるわ・・・刈高と刈込頻度の関係についてはわかってるわよね！次回説明してもらおうから考えておいてよ！

生徒：えっ・・・はい・・・わかりました・・・(汗)

項目	(ハイエンド⇔ローエンド)
芝の種類	(品種の選択)
刈高	(低い⇔高い)
刈込頻度	(多回数⇔少回数)
施肥量	(高い⇔低い)
散水管理	(多回数⇔少回数)
農薬使用	(多⇔少 or 無)